

成果指標				
成果指標	延長保育と一時保育の実施保育所数の合計			
指標設定の考え方	次世代育成支援の事業として、延長保育と一時保育の実施保育所数を増加する必要があるため、2つの保育の合計を成果指標とする。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標28年度
目標	7	7	0	0
実績	5	5	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	保育利用者のニーズに対応し、保育サービスを充実させていく上で、保育の質の向上は重要なポイントの一つであり、今後も保育士の積極的な研修会の参加を促していく必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	5	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	様々な雇用条件が違う保育士が保育を行う際には、一貫した保育の専門知識が必要となってくる。今後は、専門研修会を開き全職員が資質向上のために保育の一貫性を保つことが重要になってくると考えるため積極的にとりくむ課題と認識している。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	引き続き、産休代替等の非常勤保育士の適正な確保・配置に努める。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。